

調達物品に備えるべき技術的要件

1	超音波画像診断装置（1式）は、以下の要件を満たすこと。（救急外来）
1-1	装置本体の概要に関し、以下の要件を満たすこと。
1-1-1	高さ調整が可能な専用のカートを有すること。
1-1-2	自動画像解析機能を有すること。
1-1-3	1-1-2において、選択したエリアのLVOT左室流出路をワンステップで検知し、圧較差を算出することが可能であること。
1-1-4	1-1-2において、リアルタイムで、B-lineをハイライトし、カウントすることが可能であること。
1-1-5	1-1-4において、B-lineの本数に応じてスコアリングをする機能を有すること。
1-1-6	1-1-2において、経時的なIVC径を自動計測し、リアルタイムで最大、最小径から、虚脱指数（CI）を表示することが可能であること。
1-1-7	1-1-6において、自発呼吸での係数と人工呼吸器での係数を選択することが可能であること。
1-1-8	1-1-2においてリアルタイムにEFを算出することが可能であること。
1-1-9	1-1-2において、特定の神経ブロックの解剖学的構造を強調表示する機能を有すること。
1-1-10	パノラマビューで肺を包括的に観察可能であること。
1-1-11	本体パネルから操作可能である白黒プリンタを有すること。
1-1-12	ECG機能を搭載することが可能であること。
1-1-13	生体モニターからのECG信号を取り込み可能なECG外部入力ケーブルを有すること。
1-1-14	バーコードリーダーを有すること。
1-1-15	Storage接続を行うこと。
1-2	セクタプローブ(1本)は以下を満たすこと。
1-2-1	周波数帯域は1.1～4.7MHz以上であること。
1-2-2	視野角は120°以上であること。
1-3	リニアプローブ(1本)は以下を満たすこと。
1-3-1	周波数帯域は3.4～12.6MHz以上であること。
1-3-2	視野幅は38mm以上であること。
1-3-3	プローブに4つのボタンを配置し、そのボタンで超音波診断装置の基礎操作ができること。
1-3-4	プローブにある4つのボタンには、ユーザーが超音波診断装置の操作を割り当てることができること。
1-4	コンベックスプローブ(1本)は以下を満たすこと。
1-4-1	周波数帯域は1.4～5.7MHz以上であること。
1-4-2	視野角は65°以上であること。
1-5	ワイヤレスプローブ(1本)は以下の仕様を満たすこと。
1-5-1	Qi規格による非接触充電方式を採用していること。
1-5-2	コンソール本体上で充電可能であること。
1-5-3	プローブ本体に、リニアプローブとセクタプローブの2種類を1本に備えた2in1のDualプローブであること。
1-5-4	本体タッチパネルからリニアプローブとセクタプローブの切り替えが可能であること。
1-5-5	セクタプローブの周波数帯域は1.6～3.7MHz以上であること。
1-5-6	リニアプローブの周波数帯域は3.0～12.0MHz以上であること。

2	超音波画像診断装置（1式）は、以下の要件を満たすこと。（小児科外来）
2-1	装置本体の概要に関し、以下の要件を満たすこと。
2-1-1	21.5型高精細LCDディスプレイを搭載していること。
2-1-2	電源OFFから約110秒で起動すること。
2-1-3	バッテリーで40分のスリープモード保持ができること。
2-1-4	ライブイメージング時にセクタの幅／位置を調整可能であること。
2-1-5	心臓用セクタトランスジューサ使用時のLGC（ラテラルゲイン補正）が可能であること。
2-1-6	ズームROIを画像内の任意の位置に設定可能、ズームROIの高さや幅も変更可能であること。
2-1-7	2D、Mモード、カラーMモード、ステアラブルPWDプラ、カラードプラ、カラーパワーアンギオ（CPA）などの各モードに対応していること。
2-1-8	接続済みのトランスジューサはどれでも直接選択することが可能であること。
2-1-9	2Dモードで、Preset切り替えの際、画像幅、診断深度、フォーカス、位置、ワイドスキャン設定を保った状態でPreset 切り替え可能であること。
2-1-10	カラードプラモードで、Preset切り替えの際、カラーボックスサイズ、位置、ステアリングアングルを保った状態でPreset 切り替えが可能であること。
2-1-11	タッチスクリーンコントロールによるLGCおよびTGCカーブ調整が可能であること。
2-1-12	テキスト入力用のタッチスクリーン英数字キーボードが表示可能であること。
2-1-13	USBまたはCD/DVD メディアからのDICOM画像のインポートが可能であること。
2-1-14	バーコードリーダーを有すること。
2-1-15	Storage接続を行うこと。
2-2	セクタプローブ(1本)は以下の要件を満たすこと。
2-2-1	周波数帯域は3～8MHz以上であること。
2-2-2	フェーズドアレイ方式であること。
2-2-3	2D、Mモード、カラーMモード、ステアラブルPWDプラ、CWドプラ、High PRFDプラ、カラードプラ、ティッシュドプラ、アドバンス可変xRes、ハーモニックイメージング各イメージングに対応していること。
2-3	セクタプローブ(1本)は以下の要件を満たすこと。
2-3-1	周波数帯域は4.0～12.0MHz以上であること。
2-3-2	フェーズドアレイ方式であること。
2-3-3	2D、Mモード、カラーMモード、ステアラブルPWDプラ、CWドプラ、High PRFDプラ、カラードプラ、ティッシュドプラ、アドバンス可変xRes、ハーモニックイメージングの各イメージングに対応していること。
2-4	コンベックスプローブ(1本)は以下の要件を満たすこと。
2-4-1	周波数帯域は2.0～6.0MHz以上であること。
2-4-2	視野範囲、曲率半径50 mm、視野角72°（ワイドスキャン有効時）以上であること。
2-4-3	高密度コンベックスアレイ方式であること。
2-4-4	2D、Mモード、カラーMモード、ステアラブルPWDプラ、HighPRFDプラ、カラードプラ、カラーパワーアンギオ（CPA）、ディレクショナルCPA、SonoCT、可変 xRes、多可変ハーモニックイメージンに対応していること。
2-5	リニアプローブ(1本)は以下の要件を満たすこと。
2-5-1	周波数帯域は4.0～12.0MHz以上であること。
2-5-2	ファインピッチ、高分解能リニアアレイであること。
2-5-3	2D、Mモード、カラーMモード、ステアラブルPWDプラ、カラードプラ、カラーパワーアンギオ(CPA)、SonoCT、パノラミック、可変xRes、ハーモニックに対応していること。

3	超音波画像診断装置（1式）は、以下の要件を満たすこと。（循環器内科外来）
3-1	装置本体の概要に関し、以下の要件を満たすこと。
3-1-1	表示モードはB(2D)・M・CDI・ADF・PW・CWの各モードに対応していること。
3-1-2	観察モニタ上にECG波形を表示する機能を有すること。
3-1-3	超音波RAWデータ構造のフルデジタルシステムであること。
3-1-4	コンベックスプローブ使用時に、最大約100度まで視野角を広げて観察可能な機能を有すること。
3-1-5	2Dモード画像上に設定した任意断面からMモード画像の再構成が可能であること。
3-1-6	幅10mmの範囲に含まれるIMTを画像認識後に自動トレースし、IMTの平均値と最大値を自動計測するAuto IMT機能を有すること。
3-1-7	Auto IMT機能は、計測ROIを移動しながらリアルタイムにトレースラインを更新でき、任意の位置の計測が可能であること。
3-1-8	DICOM接続で、Storage、Print、SC、MULTI FRAME、MWM、Q/R、MPPS、SRに対応していること。
3-1-9	3つのプローブコネクタを備え、操作パネル上のボタンでプローブ切替が行えること。
3-1-10	操作パネル上のハードウェアSTCで体表からの深さに応じて超音波エコー受信時の感度を8段以上調整可能であること。
3-1-11	観察用モニタは18.5インチ以上の液晶モニタで、Full HD(1920×1080)以上の解像度を有すること。
3-1-12	観察用モニタを動かす際に、モニタ背面に指をかけることが可能なモニタサイドフックを有すること。
3-1-13	ハードウェアキーボードに、ファンクションキー（F1～F12）12キーおよびアルファベット+Altキー（A～Z）26キーにプリセットやメニューへのショートカットなど割り当てることが可能であること。
3-1-14	プローブケーブルを掛けることが可能なケーブルアームを装備していること。
3-1-15	ダブルホイールキャストを採用し容易に移動が行え、前輪、後輪全てペダル操作でロックが行えること。
3-1-16	本体一体型のゼリーウォーマを有し、Low・Highの2段階の温度設定ができること。
3-1-17	本体に取付固定可能な、デジタル白黒プリンタを有し、操作パネル上からプリント操作が可能であること。
3-1-18	バーコードリーダーを有すること。
3-1-19	Storage接続を行うこと。
3-2	コンベックスプローブ(1本)は以下を満たすこと。
3-2-1	周波数帯域は1.5～4.4MHz以上であること。
3-2-2	視野角は70°以上であること。
3-2-3	プローブキャップケースに中心線が入っていること。
3-2-4	ケーブルの断面の直径は7mm以下であること。
3-3	リニアプローブ(1本)は以下を満たすこと。
3-3-1	周波数帯域は3.2～12.0MHz以上であること。
3-3-2	視野幅は38mm以上であること。
3-3-3	プローブキャップケースに中心線と、5mm以下の間隔で補助目盛が入っていること。
3-4	セクタプローブ(1本)は以下を満たすこと。
3-4-1	周波数帯域は1.2～3.8MHz以上であること。
3-4-2	視野角は90°以上であること。
3-4-3	プローブキャップケースに中心線が入っていること。
3-4-4	プローブの保持部の高さは83mm以下であること。
3-4-5	ケーブルの断面の直径は7mm以下であること。

4

超音波画像診断装置（1式）は、以下の要件を満たすこと。（産婦人科外来）

4-1	装置本体の概要に関し、以下の要件を満たすこと。
4-1-1	WLANアダプタを接続すると、装置上に表示される2次元コードをスマートフォンで読み取ることで、無線LAN接続により画像を共有できる機能を有すること。
4-1-2	低流速の血流を高感度に検出し、描出する機能を有すること。
4-1-3	本体パネルから操作可能である白黒プリンタを有すること。
4-1-4	バーコードリーダーを有すること。
4-1-5	WLANアダプタを有すること。
4-1-6	Storage接続を行うこと。
4-1-7	数値連携を行うこと。
4-2	経腹プローブ(2D)(1本)に関し、以下の仕様を満たすこと。
4-2-1	周波数は3段階以上の切替が可能であること。
4-2-2	周波数帯域は3.0~9.0MHz以上であること。
4-2-3	視野角は90°以上であること。
4-2-4	圧電素子にシングルクリスタルを採用していること。
4-3	経腹プローブ(2D)(1本)に関し、以下の仕様を満たすこと。
4-3-1	周波数は3段階以上の切替が可能であること。
4-3-2	周波数帯域は2.0~5.0MHz以上であること。
4-3-3	視野角は110°以上であること。
4-3-4	圧電素子にシングルクリスタルを採用していること。
4-4	経膈プローブ(2D)(1本)に関し、以下の仕様を満たすこと。
4-4-1	周波数は3段階以上の切替が可能であること。
4-4-2	周波数帯域は4.0~9.0MHz以上であること。
4-4-3	視野角は180°以上であること。
4-5	経腹プローブ(4D)(1本)に関し、以下の仕様を満たすこと
4-5-1	周波数は3段階以上の切替が可能であること。
4-5-2	周波数帯域は2.0~7.0MHz以上であること。
4-5-3	視野角は90°以上であること。
4-5-4	揺動角は85°以上であること。
5	超音波画像診断装置（1式）は、以下の要件を満たすこと。（産婦人科外来）
5-1	装置本体の概要に関し、以下の要件を満たすこと。
5-1-1	WLANアダプタを接続すると、装置上に表示される2次元コードをスマートフォンで読み取ることで、無線LAN接続により画像を共有できる機能を有すること。
5-1-2	本体パネルから操作可能である白黒プリンタを有すること。
5-1-3	バーコードリーダーを有すること。
5-1-4	WLANアダプタを有すること。
5-1-5	Storage接続を行うこと。
5-1-6	数値連携を行うこと
5-2	経腹プローブ(2D)(1本)に関し、以下の仕様を満たすこと。
5-2-1	周波数帯域は2.0~5.0MHz以上であること。
5-2-2	ハーモニックイメージング対応であること。

5-2-3

視野角は80°以上であること。

5-3	経膈プローブ(2D)(1本)に関し、以下の仕様を満たすこと
5-3-1	周波数帯域は2.9~9.7MHz以上であること。
5-3-2	ハーモニックイメージング対応であること。
5-3-3	視野角は185°以上であること。
5-3-4	形状がストレート型であること。
6	超音波画像診断装置（ハンドヘルド型）（2式）は、以下の要件を満たすこと。（手術部）
6-1	装置本体の概要に関し、以下の要件を満たすこと。
6-1-1	1台でコンベックス・リニアの走査方式を切り換えて使用可能なデュアルヘッド型であること。
6-1-2	表示モードはB・M・カラードプラ・パワードプラ・パルスドプラの各モードに対応していること。
6-1-3	装置本体はIP67の防塵・防水規格に対応していること。
6-1-4	DICOM規格の画像保存に対応していること。
6-1-5	Auto-IMT機能、自動膀胱計測機能を搭載していること。
6-1-6	保護ケース・ワイヤレスチャージパッド・ワイヤレスチャージパッド用ACアダプタが附属していること。
6-1-7	フル充電状態で70分の連続使用が可能であること。
6-1-8	本体の質量は200g以下であること。
7	超音波画像診断装置（1式）は、以下の要件を満たすこと。（ICU）
7-1	装置本体の概要に関し、以下の要件を満たすこと。
7-1-1	高さ調整が可能な専用のカートを有すること。
7-1-2	自動画像解析機能を有すること。
7-1-3	7-1-2において、選択したエリアのLVOT左室流出路をワンステップで検知し、圧較差を算出することが可能であること。
7-1-4	7-1-2において、リアルタイムで、B-lineをハイライトし、カウントすることが可能であること。
7-1-5	7-1-4において、B-lineの本数に応じてスコアリングをする機能を有すること。
7-1-6	7-1-2において、経時的なIVC径を自動計測し、リアルタイムで最大、最小径から、虚脱指数（CI）を表示することが可能であること。
7-1-7	7-1-6において、自発呼吸での係数と人工呼吸器での係数を選択することが可能であること。
7-1-8	7-1-2においてリアルタイムにEFを算出することが可能であること。
7-1-9	7-1-2において、特定の神経ブロックの解剖学的構造を強調表示する機能を有すること。
7-1-10	パノラマビューで肺を包括的に観察可能であること。
7-1-11	本体パネルから操作可能である白黒プリンタを有すること。
7-1-12	ECG機能を搭載することが可能であること。
7-1-13	生体モニターからのECG信号を取り込み可能なECG外部入力ケーブルを有すること。
7-1-14	バーコードリーダーを有すること。
7-1-15	Storage接続を行うこと。
7-2	セクタプローブ(1本)は以下を満たすこと。
7-2-1	周波数帯域は1.1~4.7MHz以上であること。
7-2-2	視野角は120°であること。
7-3	リニアプローブ(1本)は以下を満たすこと。
7-3-1	周波数帯域は3.4~12.6MHz以上であること。
7-3-2	視野幅は38mm以上であること。

7-3-3	プローブに4つのボタンを配置し、そのボタンで超音波診断装置の基礎操作ができること。
7-3-4	プローブにある4つのボタンには、ユーザーが超音波診断装置の操作を割り当てることができること。
7-4	コンベックスプローブ(1本)は以下を満たすこと。
7-4-1	周波数帯域は1.4~5.7MHz以上であること。
7-4-2	視野角は65°以上であること。
7-5	ワイヤレスプローブ(1本)は以下の仕様を満たすこと。
7-5-1	Qi規格による非接触充電方式を採用していること。
7-5-2	コンソール本体上で充電可能であること。
7-5-3	プローブ本体に、リニアプローブとセクタプローブの2種類を1本に備えた2in1のDualプローブであること。
7-5-4	本体タッチパネルからリニアプローブとセクタプローブの切り替えが可能であること。
7-5-5	セクタプローブの周波数帯域は1.6~3.7MHz以上であること。
7-5-6	リニアプローブの周波数帯域は3.0~12.0MHz以上であること。
8	超音波画像診断装置（1式）は、以下の要件を満たすこと。（MFICU LD）
8-1	装置本体の概要に関し、以下の要件を満たすこと。
8-1-1	Power情報の振幅に対して陰影を付けた表現をすることで血流を立体的に表示する機能を有すること。
8-1-2	Bモード信号を用いることで、角度依存性が無く、時間分解能が良い血流表示が可能であること。
8-1-3	バッテリーを有し、電源を切らずに最大約1時間使用が可能であること。
8-1-4	本体パネルから操作可能である白黒プリンタを有すること。
8-1-5	バーコードリーダーを有すること。
8-1-6	Storage接続を行うこと。
8-1-7	数値連携を行うこと。
8-2	経腹プローブ(2D)(1本)に関し、以下の仕様を満たすこと。
8-2-1	周波数は3段階以上の切替が可能であること。
8-2-2	周波数帯域は2.0~5.0MHz以上であること。
8-2-3	視野角は110°以上であること。
8-3	経腔プローブ(2D)(1本)に関し、以下の仕様を満たすこと。
8-3-1	周波数は3段階以上の切替が可能であること。
8-3-2	周波数帯域は4.0~9.0MHz以上であること。
8-3-3	視野角は180°以上であること。
9	超音波画像診断装置（1式）は、以下の要件を満たすこと。（NICU）
9-1	装置本体の概要に関し、以下の要件を満たすこと。
9-1-1	21.5型高精細LCDディスプレイを搭載していること。
9-1-2	電源OFFから約110秒で起動すること。
9-1-3	バッテリーで40分のスリープモード保持ができること。
9-1-4	ライブイメージング時にセクタの幅／位置を調整可能であること。
9-1-5	心臓用セクタトランスジューサ使用時のLGC（ラテラルゲイン補正）が可能であること。
9-1-6	ズームROIを画像内の任意の位置に設定可能、ズームROIの高さや幅も変更可能であること。
9-1-7	2D、Mモード、カラーMモード、ステアラブルPWDブラ、カラードブラ、カラーパワーアンギオ（CPA）などの各モードに対応していること。
9-1-8	接続済みのトランスジューサはどれでも直接選択することが可能であること。

9-1-9	2Dモードで、Preset切り替えの際、画像幅、診断深度、フォーカス、位置、ワイドスキャン設定を保った状態でPreset 切り替え可能であること。
9-1-10	カラードプラモードで、Preset切り替えの際、カラーボックスサイズ、位置、ステアリングアングルを保った状態でPreset 切り替えが可能であること。
9-1-11	タッチスクリーンコントロールによるLGCおよびTGCカーブ調整が可能であること。
9-1-12	テキスト入力用のタッチスクリーン英数字キーボードが表示可能であること。
9-1-13	USBまたはCD/DVD メディアからのDICOM画像のインポートが可能であること。
9-1-14	バーコードリーダーを有すること。
9-1-15	Storage接続を行うこと。
9-2	マイクロコンバックスプローブ(1本)は以下の要件を満たすこと。
9-2-1	周波数帯域は5.0~8.0MHz以上であること。
9-2-2	視野範囲、曲率半径14 mm、視野角120° (ワイドスキャン有効時)以上であること。
9-2-3	2D、Mモード、カラーMモード、ステアラブルPWDプラ、カラードプラ、カラーパワーアンギオ (CPA) 、ディレクショナルCPA、SonoCT、xResの各イメージングに対応していること。
9-3	セクタプローブ(1本)は以下の要件を満たすこと。
9-3-1	周波数帯域は3.0~8.0MHz以上であること。
9-3-2	フェーズドアレイ方式であること。
9-3-3	2D、Mモード、カラーMモード、ステアラブルPWDプラ、CWドプラ、High PRFDプラ、カラードプラ、ティッシュドプラ、アドバンス可変xRes、ハーモニックイメージング各イメージングに対応していること。
9-4	セクタプローブ(1本)は以下の要件を満たすこと。
9-4-1	周波数帯域は4.0~12.0MHz以上であること。
9-4-2	フェーズドアレイ方式であること。
9-4-3	2D、Mモード、カラーMモード、ステアラブルPWDプラ、CWドプラ、High PRFDプラ、カラードプラ、ティッシュドプラ、アドバンス可変xRes、ハーモニックイメージングの各イメージングに対応していること。
10	超音波画像診断装置 (1式) は、以下の要件を満たすこと。(4A病棟)
10-1	装置本体の概要に関し、以下の要件を満たすこと。
10-1-1	表示モードはB(2D)・M・CDI・ADF・PW・CWの各モードに対応していること。
10-1-2	観察モニタ上にECG波形を表示する機能を有すること。
10-1-3	超音波RAWデータ構造のフルデジタルシステムであること。
10-1-4	コンバックスプローブで使用時に、最大約115度まで視野角を広げて観察可能な機能を有すること。
10-1-5	2Dモード画像上に設定した任意断面からMモード画像の再構成が可能であること。
10-1-6	心臓超音波検査においてBモード画像のコントラストを強調し、主に心筋と心腔の明暗比を高める画質調整が可能であること。
10-1-7	モーションアーチファクトを除去するアルゴリズムを用いて、微細で3cm/sec以下の低速な血流を50f/s以上のフレームレートで捉える血流イメージングは非造影でも末梢の血管まで表示すること可能であること。
10-1-8	左心室の心尖四腔像、二腔像において、AI技術により開発されたアルゴリズムを搭載したBiplane計測をワンボタンで行え、同時にGlobal Longitudinal Strain (GLS) の算出が可能であること。
10-1-9	AutoEF機能で左房において、LAV、LAVIに加えてLAEF、GLS算出が可能であること。
10-1-10	左心室の流入波形の計測において、最大5心拍でE波とA波を認識し自動で計測を行い、E/Aを算出できること。
10-1-11	左心室の流出路波形の計測において、最大5心拍で左室流出路波形を認識し自動で計測を行い、LVOTを算出できること。
10-1-12	左心室の流出路波形の計測において、最大5心拍で大動脈弁波形を認識し自動で計測を行い、AVを算出できること。

10-1-13	三尖弁逆流波形の計測において、最大5心拍で三尖弁逆流波形を認識し自動で計測を行い、TRを算出できること。
10-1-14	僧帽弁輪部運動速度波形の計測において、最大5心拍で僧帽弁輪運動速度波形を認識し自動で計測を行い、収縮期波高（s'）、拡張早期波高（e'）、心房収縮期波高（a'）を算出できること。
10-1-15	右室流出路血流速度波形の計測において、最大5心拍で右室流出路血流速度波形を認識し自動で計測を行い、RVOTを算出できること。
10-1-16	肺静脈血流速度波形の計測において、最大5心拍で肺静脈血流速度波形を認識し自動で計測を行い、PVを算出できること。
10-1-17	左室拡張不全、左室肥大、肺高血圧症に関連した計測結果が算出された場合、ASEガイドラインに基づいた判定基準を計測結果の数値に色表示するほか、次の計測領域をユーザに通知する機能を有すること。
10-1-18	DICOM接続で、Storage、Print、SC、MULTI FRAME、MWM、Q/R、MPPS、SRに対応していること。
10-1-19	4つのプローブコネクタを備え、タッチコマンドスクリーンのボタンでプローブ切替が行えること。
10-1-20	操作パネル上のハードウェアSTCで体表からの深さに応じて超音波エコー受信時の感度を8段以上調整可能であること。
10-1-21	観察モニタは23インチ以上の取っ手付き液晶モニタで、Full HD(1920×1080)以上の解像度を有すること。
10-1-22	コンセントからの電源供給がない状況であっても、バッテリー駆動での連続検査使用時間がフル充電状態で120分以上であること。
10-1-23	ダブルホイールキャストを採用し容易に移動が行え、前輪、後輪全てペダル操作でロックが行えること。
10-1-24	本体一体型のゼリーウォーマを有し、Low・Highの2段階の温度設定ができること。
10-1-25	本体に取付固定可能な、デジタル白黒プリンタを有し、操作パネル上からプリント操作が可能であること。
10-1-26	バーコードリーダーを有すること。
10-1-27	Storage接続を行うこと。
10-2	コンバックスプローブ(1本)は以下の要件を満たすこと。
10-2-1	周波数帯域は1.5～6.1MHz以上であること。
10-2-2	視野角は70°以上であること。
10-2-3	フルフォーカスモードに対応していること。
10-3	リニアプローブ(1本)は以下の要件を満たすこと。
10-3-1	周波数帯域は4.0～12.0MHz以上であること。
10-3-2	視野幅は48.5mm以上であること。
10-3-3	フルフォーカスモードに対応していること。
10-4	セクタプローブ(1本)は以下の要件を満たすこと。
10-4-1	単結晶（シングルクリスタル）素材の素子を採用していること。
10-4-2	周波数帯域は1.5～6.0MHz以上であること。
10-4-3	視野角は90°以上であること。
10-4-4	プローブ保持部の高さは83mm以下であること。
10-4-5	フルフォーカスモードに対応していること。